

「育成会の良いところ、負担に感じるところ」

一般社団法人栃木県手をつなぐ育成会 会長 小島 幸子

いつも栃木県の育成会を応援していただきありがとうございます。

障害のある人の権利擁護と政策提言を運動の柱として、全国組織である手をつなぐ育成会ですが、会員減少と高齢化が全国共通の課題であります。そこで7月3日の育成会活動委員会では、まず下野市と日光市の会長から活動報告をしていただきました。下野市の古口会長からは、事務局として市の社協の方のバックアップが手厚いことへの感謝と3町が合併した下野市なので、それぞれの町で成り立ちが異なることもあり、まとめるのにご苦労されている話がありました。また研修会を企画する前に、地元国分寺特別支援学校を訪れ、保護者にアンケートを依頼し回収したところ「育成会や親の会を知らない」という保護者が大多数であることがわかりました。また研修会のテーマの要望としては「親亡き後について」が一番多く、お子さんが学校にいる保護者にとっても心配なことであるとわかりました。下野社協のご支援をいただきながらの古口会長の行動力には、これからも期待しているところです。

次に、日光市の柳田会長からは、ご自身が理事長のNPO法人との連携による旅行、スポーツ交流会、お花見、バーベキューなどお楽しみ会をたくさん開催していて、パワーポイントで紹介された障害のある人たちの笑顔が素敵でした。障害のある人たちもいろいろなレクリエーションを経験すると「私は、次はこれがいい」と意思をはっきりと示すようになるそうです。やはり経験を重ねることが大切だと感じました。

お二人の会長の発表のあとは、小島が進行役で参加者による懇談会となりました。

テーマは「育成会の良いところ、負担に感じるところ」です。ある地区会長は、研修会やレクリエーションを企画しても集まってくれる人はいつも同じ。お世話役も年齢を重ねて疲れが出て来ている。しかし、会員同志仲間意識があり、楽しいことも多いと発言されていました。またある地区の会長は、困った時に会の先輩に相談して良かった。しかし、レクリエーションなど障害のある人は参加したいが、保護者は高齢で体力がついていけないので、本人だけで参加させて欲しいという申し出が、多くなってきている。また会員減少と高齢化で役員選びが大変だから現状維持でなんとか運営していると報告がありました。またある地区の副会長は、特別支援学校の同級生の仲間が会員になり、卒業後もずっと続いている。先輩にいろいろな相談が出来たり、助けられて来た。育成会はなくしてはならないところですよと力強く語っていました。

今まで、育成会活動に絞って懇談会を行う機会がなく今回は、皆さんの正直なお話を聞いて大変勉強になりました。比較的少人数だったので、発言しやすい雰囲気も良かったと思います。県内の地区でも成り立ちはそれぞれで、事務局体制や財政的なこともさまざまですが、参加された方は参考になることが多かったのではないのでしょうか。何よりも地区育成会でいろいろな課題がありなが

らも障害のある人たちの笑顔のために心ひとつに、育成会活動をしていこうという明るい気持ちになれました。今後ともよろしく願いいたします。